

即興 — 紀行雜詠 — ふる里北海道へ —

土田 舞山

夏の道東・みさき岬を巡る

北海道はでつかいどう 直線の十キロ道をひたすら走る

何処よりも朝日の早い納沙布岬北方四島は指呼の間なり

波荒き花咲岬天然記念の車石太平洋の飛沫に耐えており

おじろ鷺舞う春国岱 二百余种の原生野鳥は根室の誇り

凜と建つ知床岬燈台 世界遺産の守り神なり厳かに見ゆ

知床五湖の木道橋で外人さんとこんには観光の顔と顔

能取岬 オホツクの花茫々と湾曲の水平線に虚空が霞む

国後まで三十キロの野付半島 島よ返れの叫びとどけと

立石岬に悲恋の碑あり 若き男女の恋は哀れ目頭うるむ

霧多布岬チリ津波の傷も消え かもめの群れに心安めり

厚岸あつけしや克つての軍港岬に立てば幻か百余の艦艇險に浮ぶ  
落石岬おちいし廢墟になりし無線局跡 客足絶えぬ名所となりぬ  
原型に修復せるは私財惜しまぬ池田亮次氏その名を残す  
アンテナ跡の基礎に佇み威厳ありし海岸局に思を馳せる